

# 平成29年度 事業報告

(グループホーム 恵の家)

## 1) 事業所運営の理念・基本方針

〈基本理念〉「一人ひとりに寄り添う介護に努めます」

### 【考察】

- ・ご家族様に対して、毎月の「恵の家のお知らせ」を通じ、居室担当より入居者様の日常のご様子や訪問診療の内容をお伝えすると共に、体調不良時や何かあった際は都度、電話にてご連絡をすることで、信頼関係の構築を図ることができたと考える。但し、信頼関係とは、1日にして成らず、失うことは容易である。言葉の選択を間違えて誤解を生んだケースもあった。新人職員だけでなく、全職員が言葉遣いや言い回しに留意して、入居者様とご家族の対応ができるよう成長することが課題である。30年度の研修計画に「接遇」の回数を多く取り入れ、改善を図りたい。
- ・理念を具体的に実践できるよう、「標語」として職員全員が順番に考え、事務所に掲示することで、意識が高まり理念を共有することに効果があったと考える。今後も継続していく。

## 2) 管理者の事業に対する考え方

### 【考察】

- ・社会福祉法人としての地域貢献を考え、活動できたと考える。  
具体的には、自治会や運営推進会議を活用し、グループホームの役割やいつでも相談を受ける旨を発信することで、地域包括支援センターからの相談の数も増えた。地域の民生委員の相談から、入居に繋がったケースもあったので、30年度も力を入れ活動していく。また地域住民の方が、直接ホームに相談に来やすい環境や雰囲気作りにも努めていく。
- ・稼働率 100%を目標に努めていたものの、年間稼働率 97.4%という結果であった。  
100%に足りない原因の6割が「入院」と分析ができているので、いずみ台病院との医療連携の強化により、入院するケースを減らし数字に反映させていく。
- ・研修年間計画に沿って、月1回以上の研修を実施することができた。ホームの現状を考えながら、必要な外部の研修参加や内部研修の内容を検討、実施していくこととする。

### 3) 入居者（利用者）の受入（利用）促進計画

#### 【考察】

- ・入居者様が退居されてから次の入居まで平均 6.6 日であった。ご家族の都合もあるので調整に難しさはあるが、空床期間を 1 日でも少なくするよう今後も努めていかなければならない。また、見学や相談の希望があった際は、迅速かつ丁寧に対応し、急な退居にも対応できるよう、申し込み待機の状態を維持していく。

### 4) 入居者（利用者）のニーズ・要望への対応内容

#### 【考察】

- ・居室担当の役割として、毎月の「恵の家のお知らせ」の記入、「ケアプラン作成事前資料」の作成、「訪問診療記録」の記入等を通して、入居者様の理解を深め、要望や心の声を聴きだし、レクやケアに活かすことができたと考える。

### 5) 入居者（利用者）の苦情受付体制及び対応に関する考え方

#### 【考察】

- ・苦情受付担当者と苦情解決責任者を提示し、「ご意見箱」を設置することで、いつでも申し出ができる環境を整えた。今年度は、3 件の苦情の申し出があったが、苦情対応マニュアルに沿い、迅速に対応し、ご了承いただいた。

### 6) 事故防止（再発防止）への取り組み

#### 【考察】

- ・同じ研修を定期的に、繰り返し実施することで、事故に対する意識向上を図ったが、薬に関する事故が減ってはいるものの、ゼロにはならない。同じ職員が同じような事故を頻繁に起こすケースが発生しているので、職員の育成と対策の再検討が課題である。

### 7) 職員の確保、配置及び育成に対する計画

### 【考察】

- ・セルフチェック表を活用し、面談にて職員個々の目標を明確にすることで、知識や技術の習得への意欲が向上した。職員の中には、今まで資格に興味がなかった方も、実務者研修を意欲的に受講しており、30年度に介護福祉士試験を受験予定である。

## 8) 施設・設備の保守・管理に関する考え方

### 【考察】

- ・定期的に点検を実施し、設備の不備や不具合を早期に発見し早急な修繕に努めた。

## 9) 個人情報保護への取り組み

### 【考察】

- ・個人情報保護に関する外部研修へ参加し、研修内容を内部研修として実施し、共有することで個人情報保護法の理解を深めることができたと考える。

## 10) 関係団体・地域団体との連携

### 【考察】

- ・横浜市や区役所、所属する認知症グループホーム連絡会、グループホーム協議会、地域密着型サービス事業所連絡会へ積極的に参加し、情報交換や交流を深めることができた。
- ・年6回の運営推進会議を実施し、情報を収集すると共に、当グループホームが力を入れている所や大切にしていることを発信することができた。

## 11) 社会資源としての役割について

### 【考察】

- ・自治会の定例会や運営推進会議にて、グループホームとは、どういう施設であるかを説明し、ご家族や知り合いの方が認知症で悩みごとや困りごと等がある場合は、いつでも相談にのり、話を伺って一緒に考えていく旨を発信することができた。民生委員の相談から、入居に繋がったケースもあり、今後も実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援の方法を地域に向けて活かしていく。

## 12) 各種委員会・研修の実施に関する考え方

#### 【考察】

- ・月1回以上のユニット会議、内部研修年間計画に沿った研修、所属する関係団体が主催する外部研修へ計画通り、参加および実施することができた。30年度は、ホームの現状を踏まえ、接遇と事故対策の研修を多く取り入れていく。

### 1 3) 実習生・ボランティア受入、育成

#### 【考察】

- ・月1回以上、定期的にボランティアを導入することができた。今後も入居者様が喜ぶレクリエーションの意味だけに留まらず、外部の視点を取り入れることで、風通しの良い職場作りに活かしていく。

### 1 4) 防災・防犯対策避難

#### 【考察】

- ・消防計画に基づき、夜間想定 of 訓練を年2回実施した。
- ・法人内の近隣施設との合同避難訓練を企画し実施することができた。定期的 to 実施することで、災害時の協力体制や連携の強化を図っていく。